

NIIGATA アートリンク 2022

全講座
聴講無料！

各館開催講座のご案内

※各館とも新型コロナウイルス対策を講じております。
最新情報は各館HPやお電話にてご確認ください。

新潟県立、新潟市立の美術館4館の学芸員が講師を務める講座一覧です。
「美術に関する知識を深めたい」「作品や作家のことをよく知りたい！」
と思ったら、お気軽にご参加ください。

新潟県立近代美術館

TEL 0258-28-4111
長岡市千秋3丁目278-14
<https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

新潟県立万代島美術館

TEL 025-290-6655
新潟市中央区万代島5-1
朱鷺メッセ内 万代島ビル5階
<https://banbi.pref.niigata.lg.jp/>

新潟市美術館

TEL 025-223-1622
新潟市中央区西大畑町5191-9
<http://www.ncam.jp/>

新潟市新津美術館

TEL 0250-25-1300
新潟市秋葉区蒲ヶ沢109-1
<http://www.city.niigata.lg.jp/nam/>

開催日時	講座名／講師	講座内容	会場、申込、定員など
近代美 10月29日(土) 14:00～15:30	シュルレアリスムの世界 はじまりとおわり 藤田 裕彦 (新潟県立近代美術館 学芸課長)	第一次世界大戦後、芸術家たちは科学と対峙するため「シュルレアリスム宣言」(1924年)を発表しました。シュルレアリスムの誕生から終焉までを、当時の社会的状況と照らし合わせながら紹介します。	新潟県立近代美術館 講堂 要事前申込・先着順/80名
	新津美 11月3日(木・祝) 13:30～15:00	雪と生活と美術—新潟— 星野 立子 (新潟市新津美術館 学芸員)	昭和前半、政治家・科学者・文化人らがこぞって雪国の人びとの暮らしを改善しようとしてきました。美術家も参加し、その動きの一部は、新潟の地へと引き継がれていきます。美術と生活との関わりを探るお話です。
新津美 11月5日(土) 13:30～15:00	美術鑑賞における純粹経験と アートセラピー 直観(レンマ)は分析よりも上に立つ 小林 一吉 (新潟市新津美術館 学芸員)	ターナー、モネ、初期カンディンスキーの「非(無)対象」絵画などと、ニーチェ『悲劇の誕生』、西田幾多郎『善の研究』などを組み合わせて、主客未分の非対話型鑑賞としてのアートセラピーについてお話しします。	新潟市新津美術館 1階レクチャールーム 申込不要/30名
新潟市美 11月19日(土) 14:00～15:30	美術館とデザイン —クライアントとしての 前山 裕司 (新潟市美術館 館長)	展覧会のポスターや図録など、グラフィック・デザインは美術館にとってとても重要です。仕事を発注するクライアントとして、田中一光や新潟出身の亀倉雄策など優れたデザイナーと共同作業をしてきた経験をお話しします。	新潟市美術館 2階講堂 申込不要/80名
近代美 11月19日(土) 14:00～15:30	雪国をえがいた画家たち I —栢森義・小島丹漾の画業について— 長嶋 圭哉 (新潟県立近代美術館 学芸員)	洋画家・栢森義(加茂市出身、1901-92)と日本画家・小島丹漾(新潟市出身、1902-75)は、ともに雪国に生きる人々の生活を主題に作品を描きました。二人の制作秘話や作風の変遷についてお話しします。	新潟県立近代美術館 講堂 要事前申込・先着順/80名
近代美 12月10日(土) 14:00～15:30	雪国をえがいた画家たち II —生誕100年 富岡惣一郎— 宮下 東子 (新潟県立近代美術館 学芸員)	富岡惣一郎(1922-94)は、雪深い高田に生まれ、自ら絵具や道具を開発して独特の雪の世界を描きました。彼の精神的なバックボーンも含め、その作品の変遷をたどります。	新潟県立近代美術館 講堂 要事前申込・先着順/80名
新潟市美 12月24日(土) 14:00～15:30	「リアル」の来し方 —江戸の写実表現 菅沼 楓 (新潟市美術館 学芸員)	明治維新とともに本格的に輸入された写実表現ですが、それ以前、すでに江戸時代の画家たちによってその導入が試みられていました。彼らが追求めたさまざまな「リアル」のかたちと、その時代背景をお話しします。	新潟市美術館 2階講堂 申込不要/80名

	開催日時	講座名／講師	講座内容	会場、申込、定員など
新潟市美	1月21日(土)	彫刻ゲン論 —現実・幻影・原理—	彫刻という芸術をめぐる「原」理的な話題いくつかをご紹介します。[現]実の塊のように見える彫刻が、実は「幻」のような不確かさの塊でもあることについて、なるべく具体的に、あけすけな説明を試みます。	新潟市美術館 2階講堂
	14:00～15:30	藤井 素彦 (新潟市美術館 学芸員)		申込不要/80名
新津美	1月21日(土)	描かれた世界遺産のすがた	未来に引き継いでいくべきかけがえのない“人類共通の遺産”とされる世界遺産は、画題としても取り上げられてきました。本講座では平山郁夫 (1930-2009) はじめ、日本人作家を中心に、描かれてきた世界遺産をご紹介します。	新潟市新津美術館 1階レクチャールーム
	13:30～15:00	奥村 真名美 (新潟市新津美術館 学芸員)		申込不要/30名
新津美	1月28日(土)	ローマ バロックを巡る旅	古代ローマ、バロック、現代と3つの時代が絶妙に混在する街、ローマ。本講座では、バロックの都と呼ばれるようになった時代背景や、ベルニーニと彼を重用した教皇たちに着目し、魅力あふれるローマを旅します。	新潟市新津美術館 1階レクチャールーム
	13:30～15:00	石月 裕子 (新潟市新津美術館 学芸員)		申込不要/30名
近代美	2月18日(土)	ナビ派学：世紀末の画家ポール＝エリー・ランソン	ポール＝エリー・ランソン (1861-1909) は、19世紀末のパリで結成された前衛芸術グループ「ナビ派」の中心的存在でした。神秘主義的な絵画や装飾壁画、タペストリーまで幅広い制作を行った彼の魅力を紹介します。	新潟県立近代美術館 講堂
	14:00～15:30	平石 昌子 (新潟県立近代美術館 学芸員)		要事前申込・先着順/80名
新津美	2月19日(日)	ファンタスティック・アートの系譜 猪爪彦一を中心に	西洋美術史において見出されたファンタスティック・アート。1960年代頃から幻想芸術とも訳されて日本でも紹介され、関連する日本人作家も挙げられてきました。その系譜を確認し、猪爪彦一 (1951-) の絵画を歴史に照らして捉える試みです。	新潟市新津美術館 1階レクチャールーム
	13:30～15:00	長島 彩音 (新潟市新津美術館 学芸員)		申込不要/30名
新津美	2月23日(木・祝)	描かれた子どもたち ～日本美術編～	美術作品を読み解くことで、制作された当時の子どもの様子や子ども観を知ることができます。久住守景《夕顔棚納涼図屏風》から浮世絵に生き生きと表された子どもたち、奈良美智が子どもをモチーフにする理由まで。日本人作家によって表現された子どもたちの姿を見ていきます。	新潟市新津美術館 1階レクチャールーム
	13:30～15:00	山岸 亜友美 (新潟市新津美術館 学芸員)		申込不要/30名
新津美	3月11日(土)	W. S. モーム『人間の絆』とみる画家たち	W.S.モーム (1874-1965) の半自伝的小説 <i>Of Human Bondage</i> (『人間の絆』、1915年)には芸術作品や画家が多く描かれます。19世紀後半の西洋美術史を紹介しながら、物語の主人公フィリップの半生を辿ります。(『人間の絆』を読後の参加がおすすめです。)	新潟市新津美術館 1階レクチャールーム
	13:30～15:00	斎藤 未希 (新潟市新津美術館 学芸員)		申込不要/30名